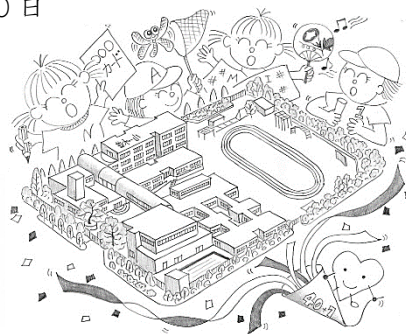


並木通信

わたしの生活は わたしが創ります



カントリー・ロード～^{ふるさと}故郷へつづく^{みち}道～

^{こうちよう}校長 ^{まつざき}松崎 ^{ゆりこ}由里子

カントリー・ロード

鈴木麻美子 日本語詞
宮崎 駿 補作詞

(前略)

カントリー・ロード

この道 ずっとゆけば

あの街に つづいてる

気がする カントリー・ロード

どんな挫折そうな時だって

決して涙は見せないで

心なしか歩調が速くなっていく

思い出 消すため

カントリー・ロード

この道 故郷へつづいても

僕は 行かないさ

行けない カントリー・ロード

カントリー・ロード

明日は いつもの僕さ

帰りたい 帰れない

さよなら カントリー・ロード

ずっと^{あめ}雨が^{つづ}続いています。秋雨前線に度重なる^{あきさめぜんせん}台風の^{たびかさ}襲来…と、なかなか爽やかな秋晴れになりません。シルバーウィークには、^{たいふう}台風25号も^{ごう}猛威を^{もうい}振るい、^{おお}多くの方が^{かた}苦しい^{くる}思いを^{おも}なさっているのではないのでしょうか。被害を^{ひがい}受けた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、9月の「^が今月の^{こんげつ}歌」は、『カントリー・ロード』でした。元々は、1971年のアメリカ、ジョン・デンバーさんの^{かしやう}歌唱で^{だい}大ヒットした^{うた}歌だそうですが、1995年ジブリの^{えい}映画「^み耳をすませば」の^{そう}挿入歌として、^{あら}新たに^{にほんご}日本語の歌詞がつけられ、今でも歌われています。並一の子どもたちも、この歌が大好きです。9月28日の音楽朝会で、「この^{うた}歌好きな^{にん}人。」と、^こ子どもたちに^{たず}尋ねると、^{うた}たくさん^ての手が^あ挙がりました。理由を聞いたところ、「^{りゆう}歌いやすく、^{うた}きれい。」^{なに}「何か^{かな}悲しい^き気持ちになるけれど、^{かな}悲しい^じ時に^{うた}歌うと^{げんき}元気が出る。」など、^{せんりつ}旋律の^{うつく}美しさや^{かし}歌詞の^{あらわ}表す^{じやうけい}情景を感じ取り、自分なりにこの曲のよさを考える子ども

たちの^{すがた}姿が見られました。～♪カントリー・ロード♪～から始まるサビの部分では、5・6年生が^{ふくじてき}副次的な^{せんりつ}旋律を^{うた}歌い、^{あめ}雨が^う打ちつける^{たいいくかん}体育館の中に^{にじ}虹が^{あらわ}現れたかのような、^{あか}明るく^は晴れやかな^{ふんいき}雰囲気となりました。

原曲の『カントリー・ロード』の歌詞は、^{ふるさと}故郷を^{なつ}懐かしみ、「^{かえ}帰りたい」と願う内容ですが、子どもたちが歌っている日本語の歌詞は、「^{じぶん}自分の^{えら}選んだ^{みち}道を進もうとする^{けつ}決意」を表しているのだそうです。子どもたちが「^{かえ}帰りたい」と願う^{ふるさと}故郷、そして、^{かえ}帰りたい^{ふるさと}故郷があるからこそ、「^{じぶん}自分が^{えら}選んだ^{みち}道を先に進んでいこうとする^{けつ}決意」をもてる^{ばしょ}場所に、^{なみき}並木の^{まち}まちがなれるように、^{ちいき}地域と共に、^{きやうい}教育活動を進めていきたいと考えています。

あいさつで 心豊かな 一日を！